

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社 konno		
事業所名	ユニット名 グループホーム たんぽぽ		
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦字米谷73-3		
自己評価作成日	平成 22 年 4 月 1 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年5月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所した当時より入所している利用者が7人おり、1つの家族になっている為、日々の生活がマンネリ化しているがその反面、気心も知れ和気あいあいの生活をおこなっています。食堂から見える108号線や陸羽東線、動きのあるものをみて生活の喜びを感じとっていただいております。近隣の中学校や小学校の生徒が授業の一環として老人の施設訪問を取り入れていただき、楽しく交流を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入るとまず目につくのがホームの理念である。キーワードは「尊厳」、「家庭的」、「楽しみ」、「能力」、「地域とのつながり」の五つである。この理念を実践につなげている例として、医療との連携・充実による終末期ケアの実施、失禁の際の不快感・不安感・羞恥心への配慮のため、トイレから浴室へ直行できる建物構造の工夫、「母の日」にはテーブル一杯に家族から贈られたカーネーションを飾り、楽しい食事会の開催、ボランティアの指導で覚えた絵手紙による自立の促進、ホーム前の通学路での馴染みとなった中学生との挨拶、水田や走行する車や列車を眺望できる環境とオール電化による安全・快適な生活などが挙げられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 有限会社 konno )「ユニット名 グループホーム たんぼぼ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回のスタッフとのミーティングや毎日の利用者の状況の変化について話し合いを行っている。	従来の理念のキーワードである「尊厳・家庭的・楽しみ・能力」の他に昨年皆で話し合い「地域とのつながり」を加えた。こられの理念を玄関正面に掲げ、毎月のミーティングでもその意義を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の一人として、自治会老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流する事に努めている。	町内会に加入し、地域の祭りや花火大会へ参加している。ホームの夏祭りには地域の人や子ども達の参加もある。地域ボランティアによる絵手紙教室や中学生の職場体験などもホームで行われ交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム前のバイパスにて行う、花祭りに行ったり、春はお花見、夏は蓮の花を観たり、四季折々の行事に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最低3ヶ月に1回の割合で開催している。町、地区の区長、民生委員、家族会の会長、副会長、施設側からと意見交換を行い、運営に役立てている。	21年度の開催は3回(8月、12月、3月)と少ないが、町(地域包括センター)は毎回参加している。議題は入居者の状況、ホームの行事など毎回同じ内容であり、会議の議題選定等に苦慮している状況が伺える。	ホームの通信では「札幌のグループホームの火災があり、防火対策に取り組みたい」と述べている。このような安全対策を議題に取り上げる等、県の指導通り年6回の開催をして頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修会等にできるだけ参加している。	町主催の介護事業所対象の研修会には毎回参加している。本人と家族との関係がこじれた問題の解決には町(地域包括)に相談している。今回の外部評価にも町の職員が同行し助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けることなく、見守りで自由に外に出る事ができる様にしている。	セキュリティ対策により日中夜間とも施錠はしていない。二輪車を愛用していた入居者が、今は二輪車がないのに「オートバイに乗って帰る」と外に出たがる場合でも、玄関まで見送り、その後も本人の意思で戻るまで見守る等、拘束のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県からの資料は直ぐ公開し参加できるように声がけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	殆んどの方は家族が居り、必要性はかんじられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時点できちんと契約書を交わし、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などでの要望はすぐにミーティング時に伝達されすぐに実行出来る様に検討している。	家族の来訪時や家族会等で意見を聞いている。最近の家族会では、ホームの看護師が入居者の健康管理を説明した。家族からは「本人の好きなものも食べさせて欲しい」との要望が出され、これを食事に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々感じる、不備など毎日のミーティング時に提案し反映している。	職員からの意見で運営に反映されたものは、①馴染みの入居者と一緒に寝ることによって安心感が増し、夜間の幻覚・幻聴等が解消された例、②入居者間のトラブル防止のため相性を考えた食事の座席配置の例等である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分の体調、家庭の状況に配慮を頂きながら、仕事に望んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町内での研修、講演会などへの参加の声掛けを頂くが、時間の都合がつかず、参加出来かねている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旧小牛田の個人的経営者間で話し合いを持ち、お互いに相談援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様からの心身の状況を可能な限り拾い、安心して生活出来る様に援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にくつろいで頂き、自由に話せる様な雰囲気を作り、不安、困っている事を本音で言って頂ける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランに基づき支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての知恵を頂いたり、共に笑い、時には涙して家族の様な関係でもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子、出来事などは、ご家族がホームにいらっしゃった時に、聞いて頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への関係継続は検討中、家族様には頻りにホームにいらっしゃって頂ける様に声がけしている。	友人等との関係が途切れているので、通院等の時を利用し遠回りして、入居者が住んでいた地域を通り馴染みの環境に触れる支援をしている。理髪店の来訪やイチゴ農園への外出等も関係作りに一役買っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格、状態把握に努め、居心地の良い座席作りや、意志伝達がスムーズに伝える様に誘導する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆んどの方が、週末期までおいでで、サービスの終了を迎えているため、その後の係りは、殆んど無い		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出の希望があればお連れするが、何かと外へ出たがらない。	入居者の言葉にしづらい思いを日々の行動や表情から汲み取っている。優しい言葉掛けとスキンシップは入居者の心を開き、好きなことへの関わりは本人の表情を生き生きさせている。入居者視点の支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の基本情報をいつでも見られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の食事は時間を決めて行っていますが、ホールの歩行運動その他は自由に生活して頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間で話し合い担当者に自覚を持って頂く。	意向の確認、計画の見直し、家族等の同意は適切に行なわれている。居室で一人で過ごすことが多い入居者の例では、意見を出し合い、その支援を本人の関心や興味がある歌や踊りへ参加させる計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に細かく記入する		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊、家族と一緒に過ごす事を望む利用者にはできる限り希望にそれる様努力します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア近隣の中学生が学校の行事の一環として訪問してくれたりボランティアの人達は歌や踊り等をして頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の往診を頂き常時情報をとりあっている。	本人等の希望によりかかりつけ医での受診はひとりで、他の方は協力病院で受診している。受診には職員が付添い、受診結果は家族にも伝えている。終末期の入居者には協力医の往診や看護師が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師から情報を得て特変があった場合は直ぐ対応できるよう体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に往診をして頂き体調が悪かった時にも往診に来て頂いて常時情報を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師と繰り返し話し合う機会を設けて、ホームとして対応できるケアの説明を行っている。	協力医の往診や看護師(2人)により、「看取りケア加算」や「医療連携体制加算」を受けている。終末期のケアを実施している入居者がひとりいる。医師から容体の悪化を告げられたが、その後症状を持ち直し、今は安定した状態が続いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回消防署から来て頂き、応急処置を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作り、火災、地震の非難訓練を実施している。	前回の外部評価でお願いした「年2回の避難訓練の実施」は、21年度は年2回実施(夜間想定も含む)し、改善している。しかし、訓練には地域住民の参加がない。	札幌のグループホームの火災では地域協力の必要性が指摘されている。推進会議には区長が参加し、ホーム関係者には消防団員もいるので、地域住民の参加を働き掛けて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の性格に合わせた言葉かけを心がけている(例えば悲観的な方には否定的な言い方をしないなど)	本人の名前を呼んでも返事がない時は、「旧姓」で呼んでみる。返事があれば「本人は若い時代に戻っている」と考え、それに応じた支援をしている。記録の時は、入居者に後ろ向きの姿勢にならないにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お墓まいりや、家族のことが気になるのであれば、家へ一時帰宅できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	電話をかけたり、生活の内容はできるだけ本人の自由にまかせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時など、小物やぼうし、バックなど身につけ、バリエーションをつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日下膳や後片付けを一緒にしている。皮むきやへたとりなどもお願いしている。	食事の準備、後片付け等は入居者の力を活かしている。職員は入居者と同じ食卓で同じものを食べている。旬の食材(筍)等や近隣農家からの差し入れの新鮮な野菜も取り入れている。献立は栄養士の助言を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調によってはメニューを替えたり尿量が少ない時は水分量を多くしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいを実施している、夕食後は入歯をはずし、洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンがあるので、声がけしトイレ誘導を行うことで失禁は減っている。	尿パットをトイレに捨てる等があるので、入居者に適切な排泄誘導を心がけている。失禁の場合はトイレから隣にある浴室へ直行(浴室とトイレは往来が可能)し、不快感等の解消を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に野菜や煮物を多くとり入れている。ホール内の歩行も日課となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	高齢者のためおよそ一日おきの入浴を午後から行っている。	入浴は毎日可能であるが、隔日入浴が多い。入居者の状態に合わせて足浴や清拭を行ったり、肌を乾燥させない固形石鹸を使用している。拒む方には本人の好きな歌と一緒に歌うなど、誘導を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は無理に寝せずに付きそっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳には目を通しており状態によって服薬の見直しも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人では手芸や俳句、畑いじりをしたり、ボランティアさんの協力で歌や絵手紙も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭や畑へは自由に行き来きできる。長距離の外出ツアーでは家族にも参加して頂いている。	ホーム周辺の散歩や家庭菜園での作業は入居者の気分転換や五感刺激になっている。四季折々の花見や日帰り温泉も楽しみの一つである。外食ツアーに出かけ自分が食べたい物を選択するのは自己決定を促す機会になっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理していると共に、希望でご本人がお持ちの場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月一回の絵手紙のはがきを使い家族の皆様にお便りをおだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	北側の廊下、トイレの気温や明るさに気をつけて調節、加湿器は4台配置している。	ホームはオール電化で快適な環境にある。温度・湿度・換気等も適切で、ターミナル・ケアを受けている入居者も容態が安定している。居間には母の日のカーネーションや五月人形も飾られ、季節感がある。冬のイルミネーションは地域の名物にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席変えを何度か行い、一人一人が会話が弾む様に配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望に沿って、テレビ、ラジオを置いて活用している。	居室には家族との誕生会で撮った笑顔の写真、絵手紙等が飾られている。元鉄道員の入居者の部屋には近くのローカル線を走るお気に入りのSL写真が飾られている。家族の宿泊には簡易ベットが提供されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、各居室には、名前を張り間違いなく戻れるようにしている。転倒を防げるように、出来るだけ足元には物を置かない。		